



No.784 2019

2019年3月1日発行（毎月1日発行）
 1947年10月27日 第三種郵便物認可
 本体価格45円（外税）（送料62円）
 発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
 TEL: 03-5367-6640 FAX: 03-5367-6641
 URL: <http://www.ymcajapan.org/>
 発行人／神崎清一 編集人／山根一毅
 印刷／あかつき印刷株式会社



つどえ東山荘に！ ～すべての“Y”がつながる日～ 第20回日本YMCA大会報告



さまざまなYMCAから年齢を超えた人々が参加

OPINION

笈川 光郎（日本YMCA同盟 会長）

私のYMCAとの出会いは、中学1年生の時。YMCAのキャンプに参加し、学校の友達関係ではない仲間と一緒に生活したことでした。それぞれの個性が大事にされ、また他人との比較ではなくそのままの自分で居られる、私にとっては最高に居心地の良い経験でした。言葉では言い表せない素晴らしい仲間との出会いこそが「ポジティブネット」の世界だったのでないか、と今は思います。

第20回日本YMCA大会が、2018年11月23日から3日間開催されました。全国から集まった各分野のユースが実行委員となって企画し、準備を進みました。また、過去の日本YMCA大会参加者はシニアの割合が多い大会でしたが、ここ数回は若者が増え、今回の参加者の半数はユースでした。

世界YMCA同盟主催の世界YMCA大会も、9年前からユースを中心となって企画する大会へと流れを変えていました。昨年2018年7月にタイ・チェンマイで行われた大会ではユースが主体となって企画・運営した大会となりました。世界のYMCAでもユースが中心となってプログラムを計画・実施するようになっています。

今回の日本YMCA大会では、プログラムはグループワークを中心として、多くのテーマが用意されたワールドカフェが行われ、シニアとユースが膝を交えて語り合う時間が多くありました。参加したユースの感想に、「ありのままの自分でいい。すべて受け入れてくれる。率直にそう思った」とあり、私がYMCAと出会った時のことを思い出しました。大会に集ったユースたちは、全国YMCAに連なりながらもなかなか出会うチャンスのない人と、YMCAという共通の基盤に立つ仲間として語り合い、共にプログラムに参加しました。各自の持つ個性を互いに大事にする「ポジティブネット」の世界を、自然な形で体験したのではないでしょうか。

参加者の皆さんのがこの経験を生かして、それぞれのYMCAに戻ってから会員同士の新たな出会いと経験の共有が図られること、またYMCA大会のようにユースがより多くの役割を担う機会が全国のYMCAに作られることを願っています。

（OPINION…意味は「意見・見解」など。『THE YMCA』では毎号、関係ある団体・個人からの意見や提案を掲載します。）



日本YMCA大会は、「YMCAミッションと課題の確認」「全国運動の一一致と協力」「世界運動への参画」「YMCA間の交流・研修・情報交換」を目的として、2年に一度実施されています。今回の大会のために全国から集まったユース9人からなる実行委員により「つどえ東山荘に！～すべての“Y”がつながる日～」というテーマのもと、YMCA大会の目的や、何よりも「楽しさ」を感じられるよう準備が続けられてきました。

今号は、年齢、性別、所属を超えた247人のYMCAに連なる人たちが参加した、第20回大会の様子を報告します。

「つながる」の 第一歩

第20回日本YMCA大会

テーマ：つどえ東山荘に！～すべての“Y”がつながる日～
日 程：2018年11月23～25日
場 所：国際青少年センター YMCA東山荘
参 加：247人（うちユース121人）／33YMCA

「つながる」って何？

第20回日本YMCA大会実行委員 武田 悠（盛岡YMCA）

第20回日本YMCA大会のテーマは「つどえ東山荘に！～すべてのYがつながる日～」。

今回、この日本YMCA大会に実行委員として参加しました。当日までの約半年間の準備期間は、実行委員の思いや願いがあふれ、一つのものを作っていくことの難しさをあらためて感じました。中でも、テーマである「つながる」とは一体どういうことなのか、どんな関係なのだろうか、どうすれば参加者に実感してもらえるのか……といった疑問が生じ、実行委員たちの頭を悩ませました。

全国さまざまなYMCAの活動に関わるユースとシニア、250人の参加者同士が深く濃い「つながり」を3日間で求めるのはとても難しいことです。それなら、たくさんの方と接する中で、1人でも2人でもいいからじっくり話したり、関わる機会がある、そんな大会になればと思いました。今まで出会うチャンスのなかった分野の人たち、そして自分の新たな一面と出会うことで、新しい価値観を見出し、「つながる」を実感できるのではないか……。私たちは、そうした機会をちりばめるため、クイズ大会で愉快に開かれる時間や、ワールドカフェで社会問題やYMCAの活動について語り合える時間など、さまざまな「つながる」きっかけを作ることにしました。

ですが、大会が終わって今思うことは、「つながる」は「その時だけではない」ということです。私が盛岡YMCAと一緒に活動をしているスタッフやリーダーのことを考えてみても、1年たってようやく分かってきたことがあったり、3年たって初めて見る姿に驚くことは少なくありません。

このYMCA大会が「つながる」第一歩であり、今後、よりつながり続けることが大切だと感じます。つながったその先は、お互いが良くなっている、新たな何かができるのではないかでしょうか。

2年に一度行われる日本YMCA大会。2回目の参加でしたが、今回もたくさんの出会いや刺激を受けました。今回「つながる」ことができたたくさんの方たちと、今後多くの場面で関わる、と共にYMCAを盛り上げ、お互いが良くなっていくことができればと思っています。



実行委員：左から 青山 夏樹（京都大学）、向平 優（盛岡）、中田 美沙希（横浜）、西宮 謙平（神戸）、森原 ケビン清治（広島）、武田 悠（盛岡）、モル 雄太郎（千葉）、高彰希・鈴木 茜希（同盟）



「対話」しよう — グループの時間



「シニア・ユースを超えたグループで関係を深め合えたことがとても有意義でした」

YMCAなどを超え、「今ハマっていること」「私の宝物」などと書かれたサイコロトークやクイズなどのアイスブレイクで盛り上がり、最初のグループの時間を過ごしました。

2日目には、ワールドカフェで話し合う4つの分野（子ども、暮らし、ユース、社会貢献）を、さらに分野ごとに複数のテーマを設け、興味を持ったものについてシェアをし、また最終日にはもう一度、ワールドカフェの場において、それぞれが話し合ってきたことをシェアしました。

討論して結果を出したり、また全体で発表したりするのではなく、決まったメンバーでの「対話」を重視した今回のグループの時間は、普段なかなか交われないYMCAの人の思いをじっくり聞く機会となり、新たな気付きも多かったのではないかでしょうか。

参加者の感想にも「誰が何を言っても否定されず、話したいことを話せた」「懇を据えてじっくりと話すということが純粋に楽しく、心躍る時間でした」などなど……最後はグループで記念撮影をするところもあって、短いながらも濃密な2泊3日のグループの時間となりました。



結論にこだわらず取りあえず話す — ワールドカフェ

グループの時間のほかに、メインセッションとして興味を持ったテーマに集まつたメンバーで話をするワールドカフェの時間がありました。

大きな4つの分野それぞれに複数のテーマを設け、話し合いをしながら思ったことを模造紙に書き込みます。一定の時間でテーマと分野を交代し、書き込まれた模造紙に次に集まつたメンバーが書き込んでいきます。テーマは多岐にわたりました。（下表参照）

集まつた全員が話し合いに参加することで、年齢や性別などの違いを超えて、自分の意見と似ていることを知ったり、違う意見に共感したり。参加者の感想にも「自分が興味を持っていたテーマについて視野が広がりました」「たくさんの人と情報交換ができた」とあり、3時間余りの時があっという間に過ぎていきました。



びっしり書き込まれた模造紙

子ども	ユース	暮らし	社会貢献
学習支援	キャンプ	雇用・労働	多文化共生
子どもの貧困	ボランティア	少子高齢化	被災地支援・復興支援
いじめ・不登校	リーダーとスタッフ	ライフスタイル	差別
虐待	学生YMCAと都市YMCA	食生活	平和
学童保育・チャイルドケア	ユースを取り巻く環境	生きがい	ボランティア
遊び	人間関係	心と体の健康	環境問題
野外活動・キャンプ	ユースへの期待・シニアへのお願い	福祉・医療・介護・バリアフリー	国際協力
ウェルネス			廃場活用づくり
障がい			

ワールドカフェ…話し合いの手法の一つ。少人数でテーブルを囲み、テーマについてカフェのようにリラックスしながら対話を楽しむ。

YMCA大会中の礼拝

チャプレンの村瀬義史氏（関西学院大学准教授）によるお話は、キリスト教による礼拝に慣れない人にも分かりやすく、「みつかる、つながる、よくなる」に沿った内容でした。

多くの参加者が礼拝の聖歌隊として活躍し、また礼拝中にはユースによる被災地支援報告もありました。



朝のアクティビティ



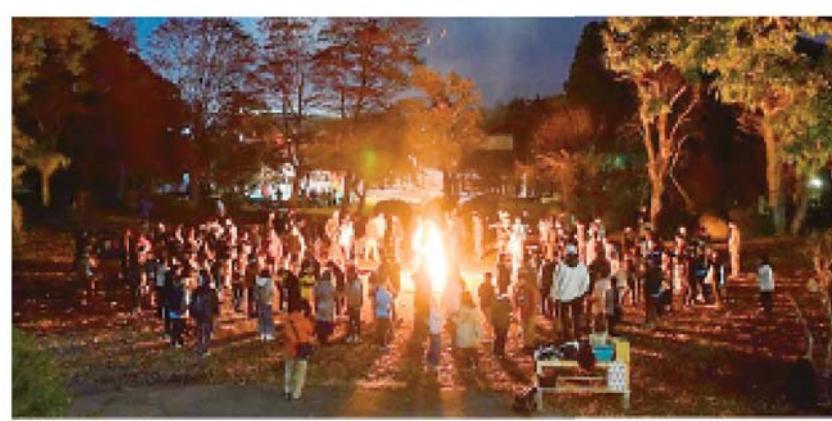
毎朝7時から、自由参加で選択できるアクティビティがあり、思い切り体を動かしたり、静かに礼拝の時を持ったりしました。大会期間中ずっと美しかった富士山に見守られ、どのアクティビティも好評でした。「大人同士のケイドロ（鬼ごっこ）が新鮮で楽しかった」「テゼ共同体の祈り、とても心落ち着き心地よいものでした」



熱帯館にて富士山の前で「テゼ共同体の祈り」

キャンプタイム

YMCAは2020年にキャンプ100周年を迎えます。それを記念して、寒い夜でしたが、東京YMCAの佐久間真人氏がリードして、キャンプファイヤーを開催しました。普段子どもを相手にキャンプファイヤーをしているリーダーたちも、参加するのは幼稚園以来というシニアの参加者も、大きな声で盛り上りました。10代から80代までという幅広い年齢層が団んだキャンプファイヤーの炎が、参加者の笑顔を明るく照らしていました。



寒さが吹き飛ぶキャンプファイヤー

次回のYMCA大会は2年後に予定されています。今回の大会に参加して、企画・運営する側を経験したいと思ったユースもいたことでしょう。そして、また次回もぜひ参加しようと思った人もいるでしょう。そんな一人ひとりが新しいYMCA大会を作り出します。

2018年度日本YMCAユースボランティア認証者

(YMCAボランティアの定義)

YMCAのボランティアとは、日本YMCA基本原則に示されている使命の実現のために、YMCAの行うさまざまな活動や組織の運営、また、YMCAが他団体と協働して行う諸活動に、
 ①自らの自由な意志によって(自愿性)、②主体的に、責任をもって参加し(主体性、責任性)、③金銭や名誉などの報いを目的とせず(無償性)、④人びとや社会のために働き(利他性、社会性)、⑤人びとと痛みや喜びを分かち合い(相互性)、⑥継続的に(継続性)、ようこんで自らの時間や努力、知識や能力、金銭などを提供する者をいう。

今年度は22YMCAから552人がYMCAの手として仲間に
 加わりました。[1954年から認証制度開始。これまでの認証者数は17,033人]



北海道YMCA	青木文香	松尾 朱夏	中野 鈴乃	松田 瑞生	長谷部 智洋	猪野 康祐	山口 きらり	立野 寛子	高橋 由菜子	野野 優一	安宅 太一	萬野 絹花
久野 審史	高木 真澄	堀田 紗子	中野 美紀	中野 守	井口 基太郎	相原 啓歌	川石 宏子	田中 あみ	神谷 亜恵	神谷 重志	久野 七彩	青木 千葉
瀬藤 伸輝	小畠根 雄輝	新木 球乃	堀沢YMCA	矢野 達基	宇田 美智子	安保 真子	鷹合 千美子	田中 陽子	谷本 悠也	野間田 佳奈	片山 友貴	浜川 真白
坪川 魅一	後藤 大和	森山 駿月	山田 美紀	小野寺 千穂	下野 優太	佐藤 遼希	吉田 一晴	田中 亜紀	加藤 朝也	佐々木 菜里	柳田 朝夕	廣澤 文香
赤池 佐佐木	鹿原 真歩	三田 風帆	坂田 未来	佐藤 浩祐	西田 哲哉	武田 春树	安西 郁菜	土西 健志郎	大須 戸田	佐藤 早紀	小堀 吾香	増田 由理子
駒澤 美紀	水澤 智美	佐藤 有香	佐藤 浩果	佐藤 浩果	佐藤 嘉祐	武田 京	前嶋 雅	寺本 麻理菜	中尾 ひかり	寺本 真里奈	能居YMCA	田代 みなみ
橋原 英樹	寺田 朱里	太田 幸南	柳明 和希	田代 健太	高田 伸也	高田 知可	前嶋 弥	中岡 美秋乃	吉井 裕貴	高岡 茂昌	赤谷 知保	麻木 優衣
森田 真帆	林詩穂	大橋 京佳	高田 優大	高田 喬希	平山 ひかる	吉田 俊也	稻井 美恵	中田 鳩帆	伊井 正志	高田 伸也	井田 彩音	宮下 七海
皆台 優香	古野 美香	鷲山 隆太	鎌木 美菜	上原 美帆	土居 拓治	吉本 天愛美	松田 美香	鶴見 拓也	鶴見 拓也	森北 皓生	岩村 美希	北九・YMCA
木原 つづり	味澤野 由太	青藤 菊介	三島 崇郎	卷瀬 麻理	井上 創斗	鈴木 美美	鶴谷弘樹	山崎 元輝	吉井 大和	田原 佐奈	田中 夕爽	有吉 志穂
鶴嶺 天馬	人見 規矩	鈴井 隆也	三輪 淳也	河辺 英惠	鶴岡 亮輝	中村 未来	門脇 真斗	山崎 航由	鷲原 あづは	下田 錦英	谷 いきみ	萬岡 深邑
中村 凌毅	中村 深人	佐藤 公美	岩野 浩輔	長澤 桑果	大塚 塚成	杉内 優也	吉田 美紗	鷲岡 万季	内山 翼	西山 優花	石横 怜奈	松本 伸香
吉田 勝成	寿井 佑希	岡山 浩志	遊佐 雅志	遊佐 雅志	小又 和也	高村 美里	鷲尾 加賀	阿部 真理子	山本 幸平	中村 実友	柳原 亜希子	小室 かすみ
佐久間 晃太	吉野 春奈	鷲山 駿子	石原 有妙	飛鳥和 雅	二瓶 伸也	木村 沙里	鷲村 真子	光田 伸夫	小林 英良	二宮 遼史	田和 春生	甲野 友梨奈
井上 千晴	藤田 美里	保坂 桃子	阿部 太一	小澤 稲	尹 優也	青木 文香	山崎 あづさ	有田 伸羽	小野 優芽	筒井 ひなた	太田 真介	中野 真理花
林泉樹	高橋 風	山村 井花	伊藤 充人	松山 鮎香	底田 駿	森本 美穂	高橋 球空	今中 慶	佐々木 健人	足立 実也	鷲川 明歩	中村 鏡花
大田 達祐	山下 隆也	山根 井裕	金子 純代	大山 心	高木 雄太	吉田 芽穂	高木 真也	平松 雄大	鷲本 春晴	鷲木 雄介	君 喜太	松永 佳子
日馬 智志	本間 真春	若尾 順香	小廣 宗宝	加藤 日向	花園 由梨佳	田中 麻穂	鷲原 真月	米川 彩花	久木 伸太郎	田野 幸樹	妹尾 琴理	利田 彩香
菊池 駿奈	高野 なみ	橋島 大輝	中澤 達太郎	平野 美由紀	中澤 駿也	高木 光彩	鷲澤 千鶴	山本 光	鷲田 美智子	西村 美穂	村田 真衣香	西野 伸也
佐藤 美紀	埼玉YMCA	横井 加政	松島 利香	青木 紗衣	田中 順大	梅次 弘規	大場 千聖	山崎 伸子	小野 優芽	二宮 遼史	森崎 美衣	高橋 恒
小栗 乃愛	高野 真理	高野 翔	望月 麻帆	馬渡 裕子	石井 千里	梅次 弘規	山東 京緑	森本 駿子	佐々木 健人	筒井 ひなた	太田 真介	中野 真理花
選運 さやか	立岡 杜太	板木 阿貴	守谷 未来	幸田 雅奈	利上 真太	北川 伸吾	北川 伸吾	平松 雄大	鷲本 剛也	足立 実也	鷲川 明歩	山本 彩世
寺崎 真月	平田 真歩	平田 真歩	石渡 雅	久保 こいの	久保 千鶴	大角 百花	大角 百花	戸村 伸也	吉田 美美	鷲田 美智子	鷲木 拓也	高橋 拓人
青木 繁香	松尾 修平	青柳 真理	千足 真里子	伊藤 京美	久保 真由乃	鷲澤 千鶴	鷲澤 千鶴	山本 伸子	鷲井 真也	鷲井 真也	竹内 文乃	高崎 YMCA
三友 のぞみ	青柳 駿	中澤 浩三	鰐淵 精天	高田 利香	田中 順大	梅次 弘規	大場 千聖	西村 伸子	鷲見 哲子	北川 真也	河崎 美希	浅山 実希子
金井 駿奈	木下 澄七	若月 未来	板木 初音	馬渡 裕子	石井 千里	梅次 弘規	山崎 伸子	森本 駿子	鷲田 真也	水木 みわ	高木 真也	山本 香織
五十嵐 審祐	小久保 美羽	原田 駿	高津 優花	高津 芽生	利上 真太	北川 伸吾	古澤 真実	鷲野 千鶴	鷲井 真也	神戸 YMCA	大曾根 健吾	西野 伸也
佐藤 白菜	大野 彩月	遠藤 敦	神 真麗	高山 崇	上田 美莉	大角 百花	大角 百花	戸村 伸也	鷲野 紀花	鷲本 古河	鷲井 美穂	高橋 真也
石井 千智	中嶋 エリ	内田 翔月	板橋 祥太	高波 祥太	鷲澤 千鶴	鷲澤 千鶴	鷲澤 千鶴	田中 駿	鷲守 真太	鷲山 みづさ	竹内 文乃	大角 愛利
古谷 真菜	東京YMCA	青木 大郎	佐藤 霜	鷲井 明香	鷲井 明香	鷲井 明香	鷲井 明香	米津 彩智	鷲井 真莉菜	北川 伸也	大村 美沙希	井上 智恵
後藤 勉介	森 裕太郎	藤原 厚	佐浦 伸	笠木 怡奈	山本 夏海	近藤 伸也	小西 莉月	伏見 菜穂	鷲井 真也	鷲井 伸也	岡本 優花	神戸 真理花
大庭 茜香	佐藤 健太	本田 伸子	内田 栋太	石渡 光亮	中野 沙織	近藤 伸也	鷲澤 伸也	村上 明大	鷲井 勉	鷲井 伸也	山根 かれん	川路 明場
海老名 憲奈	鶴川 美江里	安田 生香	鈴木 里奈	天野 伸哉	松木 浩臣	近藤 和也	上田 優子	吉田 美穂	鷲田 美智子	北原 伸也	鷲井 伸也	高橋 拓人
酒井 廉	桂田 駿	西村 琢摩	高野 真里会	鶴野 伸也	高野 真里会	星子 真里子	鷲澤 伸也	鷲澤 伸也	鷲田 真也	鷲田 真也	鷲井 真也	下城田 美治
柳井 悅晴	小野 朝風	谷井 伸香	五十嵐 一輝	小川 駿也	佐々木 花菜	牧野 駿也	鷲澤 伸也	鷲澤 伸也	鷲田 真也	鷲田 真也	鷲田 真也	田中 美里
福島 里奈	吉田 新	小野 朝風	鈴木 真咲	三谷 駿也	川口 優也	鷲澤 伸也	鷲澤 伸也	高崎 韶				
高橋 里奈	渡辺 真生	岡田 実穂	羽田 真草	萩原 崇	渡辺 真斗	鷲澤 伸也	鷲澤 伸也	高橋 真也				
高橋 里奈	高山 美帆	大迫 京輔	諸岡 広洋	諸岡 広洋	久米 淳太	鷲澤 伸也	鷲澤 伸也	高橋 真也				
茅野 夏海	本田 由希奈	内田 彩香	永井 洋輔	佐藤 夢	中村 亮介	鷲川 伸子	鷲澤 美希	鷲澤 美希	鷲澤 美希	鷲澤 美希	鷲澤 美希	黒木 伸也
茨城 安里	吉岡 新保	松尾 優香	小林 雄人	井上 七尋	今村 舞音	日高 駿也	北浦 駿	井内 理斗	家原 健太郎	鷲内 ひかり	鷲内 ひかり	鷲内 ひかり
	日本YMCA	日本YMCA										

Positive Net NEWS

学Yという生き方を、歴史のなかに位置づける —学生YMCA130周年記念フォーラム—

2019年1月19日、
在日本韓国YMCAを
会場に学生YMCA130
周年記念フォーラム
が開催されました。



現役学生から90代まで98人が全国から参集。実行委員長の板野靖雄氏(鳥取大学YMCAシニア)がテーマ解説を行い、若き日に、学Yでのさまざまな人の出会いを通して、自分の言葉で語ることの大切さを知り、イエス・キリストに示された生き方へ招きがあったと語られました。

統いて内田樹氏(神戸女学院大学名譽教授)の主題講演がありました。人間だけが持ち得た「時間意識」や血縁の「共同体意識」が薄れ、倫理なき社会へと突き進み、文明史上の危機である。学Y、YMCAのような過去から未来に思想をつなぐ共同体こそが重要であり、「先人からの贈り物を、自分もまた後の世代へ渡していく」意識が人間的成熟を促すと話されました。

後半では学Y出身の若手の教員、牧師らによるパネル・ディスカッションが「学生YMCA・キリスト教は、今の若者をどう応援・後押しできるか」をテーマに行われ、聖書研究を基盤とした活動からどう若者の生きづらさを支えられるか、共に考えました。

礼拝では、学Y出身で30代の牧師2人より、学Yは「いまを生きる学生

アジア・世界のYMCAから

□新世界YMCA同盟総主事 カルロス・サンヴィー氏からの挨拶

2019年1月、アフリカ出身初の総主事としてサンヴィー氏が就任しました。ユース・エンパワーメントを通して、YMCAがすべての若者にとって必要な「場」となり、ともに新しい21世紀のYMCAを作り上げていくことが強調されました。

□リーダーシップトレーニングスクール—テサロニキYMCA

14~17歳の約600人がボランティア活動の運営を学んでいます。3年間の研修の修了時には社会課題を共に考えるイベントを自分たちで運営し、約5千人の市民が参加します。(ギリシャ)

*日本のYMCAはテサロニケYMCAの難民支援活動をサポートしています。

□新しいモンゴルYMCAの活動

モンゴルYMCAでは、アート、チェス、音楽、モンゴルの文化や歴史を学ぶプログラムを参加しやすい会費で実施しています。年齢に合った学びや、創造力を豊かにすることを大切にしています。

□CAMP CLIMATE 参加を振り返って 京都大学 YMCA 横本寛子

2018年12月9日より6日間、ポーランドでのCOP24に合わせて実施されたCAMP CLIMATE(環境についてのユースの集い)には、世界のYMCAから約20人のユースが参加しました。同年代のユースが環境問題を自分として考え、行動していることに刺激を受け、小さな行動でも、広がることで大きな影響力が生まれることに気付きました。

●記事の続きは日本YMCA同盟の「世界のYMCA」

ページに掲載しています。ぜひお読みください。

日本YMCA同盟 検索



モンゴルYMCA歴史クラス